

関東信越国税局長賞

正しい税金の配分を考えるためには

加須市立大利根中学校

二年 石塚 ことみ

両親がテレビの特集番組を見ながら「景気が良かった頃は税金なんてそんなに気にならなかったのになあ」とため息まじりに話している。景気が良かった時代を知らない中学二年生の私にとって、親の昔話には共感できないが深いため息にはシンパシーを感じている。と言っても、払っている税金と言えば消費税だけの私と、その他多くの税金と戦っている両親とは、ため息の質は大きく違うと思う。それでもシンパシーを感じるのは、税金というものが「家庭の運営費」に強く影響を及ぼすモノであり、それが私や家族の「未来」を大きく左右するモノであることを本能的に感じ取っているからだ。私は思っている。来年受験生となる私にとって「私立高校の無償化」は私の「未来」を大きく左右するその一つだ。2026年度から(親の所得制限なく)私立高校の授業料が無償化となれば、進学先の選択肢が大きく広がり、これまで高額な授業料がネックで検討できなかった多くの家庭にとって非常に有難い制度だと思う。しかし一方で、当然ながらこれらの費用は全て税金でまかなわれる。私にとっては「とても良い税金の使い方」だが、高校と関係のない人や家庭にとっては「迷惑な税金の使い方」なのかも知れない。

お年寄りのいる家庭であれば福祉を分厚くして欲しいと思うだろうし、病気を抱えた家族がいる家庭なら医療費を充実させて欲しいと願って当たり前だ。私の叔母も難病と戦っていて、もう何十年も病院に通っているが、叔母を通じて医療費補助の有り難さを私も痛感している。社会保障以外でも、道路や公園などの公共物が整備されると便利だし、ネットやSNSももっと進化して欲しい。国を守ることでって重要だし貧しい国の支援も誰かがやらなければならない。どれもこれも大切で、どれひとつ欠けていいものなんてないと思う。ただ財源には限りがあり、どれかを選び、どれかを諦めなければならないことは仕方ないことだと思う。つまり「正しく配分すること」がもっとも大切なことだと思うが、この「正しく」が不可能と考えるほど難しいのではないだろうか。福祉、医療、公共事業、教育、国防など、各々の分野にたくさん困っている人がいて助けを求めている。これらに「正しく」優先順位をつけるなんて、誰にできるのだろうか。

ただ今の私にできることははっきりしている。まずは「幅広く、深く正しい知識」を身につけることだ。過去に学び、現状を知り、正しく未来を予測できる知識をつける。まずはここからだ。浅く間違った知識ではとても正しい判断はできず、かたよった狭い知識では公平な判断はできない。これから高校受験に向けて本格的な勉強が始まっていくが、受験以外に新たな勉強の目的が見つかったようで少し嬉しい。